日本臨床発達心理士会千葉支部　2018年度第2回資格更新研修会のお知らせ

期日　2018年10月28日(日)

会場　千葉大学西千葉キャンパス　教育学部1号館　１階大会議室

　　　千葉市稲毛区弥生町1-33　　JR西千葉駅または京成みどり台駅より徒歩

　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　(車の乗り入れはできません)

午前の部

9時30分～12時30分　(9時受付開始)

講演　「乳幼児期の発達のアセスメントと支援～新版K式発達検査等の活用～」

講師　弓削 晃一 先生

要旨

　本研修会では、長野県原村教育委員会の弓削晃一先生を講師にお迎えして、乳幼児の発達のアセスメントについて、新版K式発達検査の概要と特徴を中心にご講演いただき、保育・教育実践に生かしていくための方法について理解を深めたいと思います。

　弓削先生から次のようなメッセージをいただいています。

　新版K式発達検査の特徴は、0歳から成人まで出来る検査です。今現在子どもをどう見るのか見ることだけでなく、実践の検証や子どもの発達の過程なども見ることが出来ます。しかし、検査器具が多いこと、１歳以降の検査項目では、決まった検査順序がないこと、障害児ではどこから始めていいのか見極めることなど少し経験が必要なことがあり、躊躇する方も多いようです。WISCなどと違い、期間をおかず実施することも出来ます。2回目以後は逆にやりやすくなります。はじめに新版K式発達検査の概要と特徴を紹介し項目の認知的な解釈と発達との関連を述べたいと思います。どの検査でもあるいは観察でも子どものアセスメントをするときは、子どもの発達についての知見が必要ですが、新版K式発達検査では、キーポイントとなる項目があり考えやすいところがあります。そのことにも触れたいと思います。

　また、私は千葉で特別支援学校に長い間勤めていたとき、できる限り発達診断をして実践をしたいと思っていました。しかし、検査は出来ても制度や慣例などに阻まれ十分にアセスメントから実践につなげることは出来ませんでした。現在の仕事でも心理検査を沢山頼まれますが、多くは就学進路のために使われることで終わってしまいます。これでは、一生懸命課題に取り組んでくれた子どもや、相談をしてきた保護者の願いに応えることは出来ません。今回は、そういった経験も踏まえて、アセスメントを実践につなげるにはどうしたよいか、問題を提起し、一緒に考えられたらと思っています。

午後の部

13時30分～16時30分　(13時受付開始)

講演　「学級の中の気になる子の支援～個の支援とクラスづくりから～」

講師　漆澤 恭子先生

概要

　本研修会は、漆澤恭子先生に「学級の中の気になる子の支援～個の支援とクラスづくりから～」のテーマで講演していただきます。

　漆澤先生は、東京都公立小学校で通常の学級や情緒障害特別支援学級の担任を経て、2018年3月まで植草学園短期大学教授として勤務され、現在、東洋大学・明治学院大学・昭和女子大学・植草学園短期大学非常勤講師、三島市教育員会巡回相談員、特別支援教育士スーパーバイザーとして活躍されています。

　ご講演にあたって、漆澤先生から以下のようなメッセージをいただいています。

　学校が楽しいのは、いろいろな友達がいて、自分を入れてくれる安心できるクラスがあるからです。気になるＡさんがいる時、担任の先生はＡさんとクラスを常に視野に入れています。やりにくさのあるＡさんですが、困っていることは、Ａさんだけなく、クラスにもあるかもしれません。そして、Ａさんのやりにくさへの対応には、クラスの協力も大切です。そんな思いから、Ａさんへの支援を、個の支援とクラスづくりの両面から考えていきたいと思っています。

　Ａさんもクラスの子どもたちもわかりやすい授業、楽しく過ごしやすいクラスに近づければ、それはまさしく、インクルーシブ教育の時代の学級経営です。

〇参加方法

　　有資格者向け研修会。他支部からの参加も歓迎です。

事前申し込みの必要はありません。当日、直接会場にお越しください。

IDカードを必ず持参してください。

〇参加費　午前・午後各1,000円。当日、受付で集金します。

〇研修ポイント　午前・午後各1ポイント

本研修会についての問い合わせは、Eメールでお願いいたしま